

1 目的

共振回路は同調回路，フィルター回路，発信回路等の構成要素として応用上重要である．ここでは，電気回路の復習も踏まえて，並列共振回路のインピーダンス周波数特性を測定し，電気回路におけるフェーザ，複素インピーダンス，電圧波形波の振幅と進み・遅れ等の概念を再確認する．また，電気回路演習での実験 [1] を再確認し基本的な測定技能を高める．また，共振回路に対する理解も深める．

2 理論

並列共振回路の一般形を図 1 に示す．ここではコイル L とキャパシタ C は理想的であるとし，抵抗 R を並列に考える．各周波数 ω [rad/sec] での複素アドミタンス $Y(\omega)$ [S] もしくは複素インピーダンス $Z(\omega)$ [Ω] は，以下のように書ける．

$$Y(\omega) = \frac{1}{R} + j\omega C + \frac{1}{j\omega L}$$
$$Z(\omega) = \frac{1}{Y(\omega)} = \frac{L}{C} \cdot \frac{1}{\frac{L}{RC} + j\omega L + \frac{1}{j\omega C}}$$

サセプタンス成分 $\omega C - \frac{1}{\omega L}$ がゼロとなる共振角周波数 ω_0 [rad/sec]，共振周波数 f_0 [Hz]

$$\omega_0 C - \frac{1}{\omega_0 L} = 0 \longrightarrow \omega_0 = \frac{1}{\sqrt{LC}}, \quad f_0 = \frac{1}{2\pi\sqrt{LC}}$$

において，図 1 の並列共振回路のインピーダンスの大きさは最大をとり，共振の状態になる．

並列共振回路に対し回路全体を流れる電流 I [A] と抵抗 R に分流する電流 I_R [A] の電流相対比 I_{ratio} を定義する．

$$I_{ratio} \equiv \frac{|I_R|}{|I|}$$

I_{ratio} の周波数特性を同調曲線と呼ぶ．図 1 の並列並列共振回路においては I_{ratio} は

$$I_{ratio} = \frac{1}{|Y(\omega)|R} = \frac{|Z(\omega)|}{R} = \frac{|Z(\omega)|}{\max |Z(\omega)|}$$

ともかける．共振周波数 f_0 [Hz] において I_{ratio} は最大値 1 をとる． $I_{ratio} = 1/\sqrt{2}$ を満たす各周波数 ω_L , ω_H ($\omega_L < \omega_0 < \omega_H$)，あるいは周波数 f_L , f_H ($f_L < f_0 < f_H$) に対し

$$S = \frac{\omega_0}{\omega_H - \omega_L} = \frac{f_0}{f_H - f_L}$$

を選択度と呼ぶ．共振周波数の時のコイルまたはキャパシタに分流する電流 I との電流比を考えると，共振回路の Q は

$$Q = \omega_0 CR = \frac{R}{\omega_0 L} = R\sqrt{\frac{C}{L}}$$

で与えられる．このとき，

$$Q = S$$

が成立する．

3 測定

測定機器

コイル，キャパシタ，固定抵抗，ブレッドボード，オシロスコープ，発振器，配線材料，関数電卓，ノート PC

測定手順

理論値計算

指定された L, C, R の値をもとにインピーダンスの理論値を $f = 100 [\text{Hz}] \sim 100 [\text{kHz}]$ の範囲で回路シミュレータを用いて計算し，インピーダンスの大きさ，偏角，電流相対比の理論曲線をそれぞれ両対数・片対数・通常方眼グラフ用紙にプロットする．なお，理論値計算では一律にコイルの巻線抵抗を $r_L = 0.6 [\Omega]$ に設定すること．共振周波数 $f_0 [\text{Hz}]$ ，同調度計算のための $f_L, f_H [\text{Hz}]$ は回路シミュレータから数値的に求めておく．電流相対比のグラフは f_L, f_H を含むよう適切に計算帯域を設定せよ．

回路

測定においては，共振回路全体を流れる電流 I を測定するために測定用の抵抗 R' を直列に挿入し，図 2 に示す回路構成をとる．

測定 1

発振器から正弦波を発生させ，適当な R' を用いて図の c 点を電圧測定の基準として $A - c$ 間 $v_1(t) [\text{V}]$ をオシロスコープの CH1， $B - c$ 間 $v_2(t) [\text{V}]$ を CH2 で測定する．回路を流れる瞬間電流値 $i(t)$ は $i(t) = -v_2(t)/R'$ で求まるが，波形が反転していることに注意すること．一つの測定周波数 $f [\text{Hz}]$ についての測定対象は，瞬間電圧 $v_1(t)$ と $v_2(t)$ の最大振幅，周期 $f [\text{Hz}]$ ， $v_1(t)$ と $v_2(t)$ の対応する零交差点の時間幅 $\Delta T [\text{sec}]$ である．前者二つの振幅値からインピーダンスの大きさを求める．後者二つの時間幅からインピーダンスの偏角を求める．周波数 f はオシロスコープの測定機能を利用する．測定範囲内で適切に測定し，インピーダンスの周波数特性，電流相対比をそれぞれ理論値をプロットしたグラフ用紙に記入する．なお，実際の共振周波数 f_0 と f_L, f_H を求めるため， f_0, f_L, f_H 近傍は詳しく測定すること．

使用機器

1. RC 発信機（ケンウッド AG-203A）
2. DSO（Tektronix TBS1022）
3. ブレッドボード
4. Qucs 0.0.16